

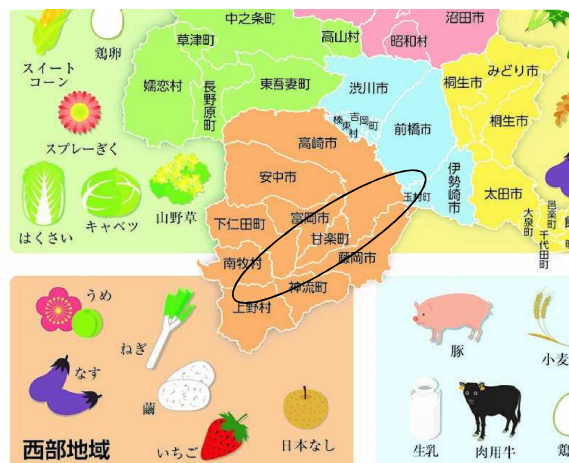
計画年度 令和3～5年度

# 多野藤岡地域の多様な担い手の確保と育成

西部農業事務所普及指導課  
藤岡地区農業指導センター

## 管内の農業の背景

- 多野藤岡地域は、高崎市新町、吉井町、藤岡市、上野村、神流町の2市2町1村で構成
- 比較的平坦な地域と中山間地域とに大別。
- 平坦地域では、米麦を中心とする水田農業、トマト・キュウリ・イチゴ・洋ラン等の施設園芸、ナス・ネギ等の露地野菜及び畜産が主要品目
- **担い手の高齢化が進み、農業従事者は減少傾向**



出典：関東農政局Webサイト

# 1 課題設定の背景と理由①

## 産地の現状および抱える課題

- ◆施設園芸の担い手確保が緊迫の課題
- ◆農業知識がなく、自己資金の少ない就農希望者の増加
- ◆最初は露地作物で開始する事例が多いが、規模拡大や雇用のタイミングが難しい。

### 生産者の高齢化、担い手確保が緊急の課題

3

# 2 支援事項と解決手法①

## (1) 新規就農支援体制の強化による新規就農者確保

主な活動	R3	R4	R5
新規就農支援体制の強化	←→		
営農品目の選定支援		←→	
農業者意向調査 (アンケート、聞き取り)	←→		

◇ワンストップ窓口の設置による市町村、JAとの  
共通認識の醸成

→ 様々な立場から最良の道が選択できるよう連携

4

## 2 支援事項と解決手法②

### (2) 就農後の定着支援

主な活動	R3	R4	R5
フォローアップ支援	←→		
農業基礎講座の開催	←→		

◇基礎からの徹底したフォローアップ支援

◇新規就農者に必要な基礎講座の開催



きめ細かいフォローアップ支援

5

## 2 支援事項と解決手法③

### (3) 農業経営発展に向けた家族経営協定締結

主な活動	R3	R4	R5
担当者会議	←→		
推進対象者リストアップ	←→		
JA広報紙等情報提供	←→		

◇対象者をリストアップして、個別に推進する。

また、農業後継者だけでなく、新規就農者に向けても推進。

6

### 3 到達目標（目標年次の姿）

項目	年次	R2(現状)	R3	R4	R5
45歳未満 新規就農者数		3※1	8	8	8
青年等就農計画 売り上げ達成率(%)		60※2	57	66	75
経営モデル案の作成		0	0	1	1
家族経営協定締結件数		91	95	84	84

※1 過去3カ年の平均値

※2 当該年度の売り上げは作付け面積・作柄等から推計

7

### 4 活動経過及び結果

(1) 新規就農支援体制の強化による新規就農者確保

目標： 45歳未満新規就農者 **8人**

#### 活動のねらい

共通したビジョンを持った就農相談や農家育成の実施

#### 活動経過

- ・就農担当者会議 **4回**（目標3回）
- ・合同就農相談会 **25回**（目標8回）
- ・就農相談 **21回**（目標25回）
- ・新規就農者実態調査 **1回**（目標1回）

#### 活動結果

**新規就農者のスムーズな就農・定着**につなげることができた。

8

## 4-(2) 目標所得水準にあった営農品目の選定支援

目標： 経営モデル案の作成 **1事例**

### 活動のねらい

- ・高齡化した施設栽培農家にアンケートを行い、**産地の動向を探る。**
- ・新規就農者に、就農10年後に認定農業者として自立するための**目標を掲示して、定着率をあげる。**
- ・地域で優良な経営を行っている新規参入者（目標事例）の**作業動画を作成、新規就農者の作業改善の資とする**

### 活動の経過

- ・ナス作業実証モデル農業者設置 **2戸**（目標2戸）
- ・ナス農家作業内容聞き取り **2回**（目標2回）
- ・イチゴアンケート分析検討 **1回**（目標1回）

9

## 4-(2) 目標所得水準にあった営農品目の選定支援

### 活動結果

#### ①ナス作業実証モデル農業者設置

- ・新規就農者の早期上達（特に省力化）のため、就農5、10年後の各農家の管理動画をGoProで撮影し、比較。



- ・両農家で差は無かったが、切り戻しの**判断が速く、作業時間が短かったことがわかった。**
- ・この管理動画を講習会で使用したところ**大好評。**
- ・**作業改善につながった**

GoProの映像が入ります

10

## 4-(2) 目標所得水準にあった営農品目の選定支援

### 活動結果

#### ②ナス農家作業聞き取り

- ・調査をふまえ、補完的な作物も検討し、当地域でステップアップが可能なモデルを作成

1年目： 露地ナス10aから開始



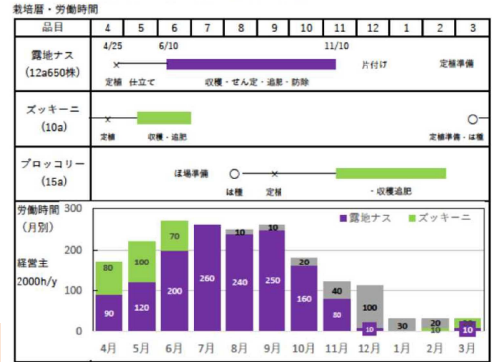
2～3年目：徐々に規模拡大



4～5年目：ズッキーニ+露地ナス  
+ブロッコリーの複合経営

多野郡同級 野菜経営モデル調査 「露地ナス30a+ズッキーニ10a+ブロッコリー15a」  
 前提 ・労力は経営主+臨時雇用3人。 令和4年度実施  
 条件 ・年間労働日数は概ね250日、労働時間は約8時間/日。  
 ・露地ナスの収穫期間である6～10月は終日休は無しとする。  
 (7～10月はJA共同選果場利用)  
 ・借地代、資本裝備の減価償却などは収支に含めない。

所得モデル(期待値)  
250万円



目標収量・A品率・売上げ

	目標収量	目標A品率	目標売上	目標所得
露地ナス30a	27000kg	AM70%	8,500 千円	2,240 千円
ズッキーニ10a	10800kg	—	500 千円	150 千円
ブロッコリー20a	2000kg	—	500 千円	120 千円
合計			9,500 千円	2,510 千円

経営収支など

支出の部			収入の部		
品目	金額		品目	金額	
露地ナス	ズッキーニ	ブロッコリー	露地ナス	ズッキーニ	ブロッコリー
資材費 2,040 千円	120 千円	160 千円	売上 8,500 千円	500 千円	500 千円
出荷経費 2,480 千円	130 千円	千円	雑収入	千円	千円
雇用費 700 千円					
その他 1,040 千円	100 千円	160 千円	所得率 約26%	約30%	約34%

ナス経営モデル案

## 4-(2) 目標所得水準にあった営農品目の選定支援

### 活動結果

#### ③イチゴ農家アンケート分析検討

- ・高年齢化しており、後継者がいない農家が多い
- ・雪害(H26)で立て直したハウスであるため、償却期限が来るまでは頑張りたい
- ・これから空きハウスが徐々に出現する



イチゴで就農したい！  
でも、初期投資がかかる・・・

空きハウスを活用し、初期投資を抑えた経営モデルを検討



令和5年度中の完成を目指し、作成中



## 4-(3) 就農後の定着支援

目標：青年等就農計画売上達成率 **66%**

### 活動経過

- ・認定新規就農者の作付け面積等の把握 **10戸** (目標9戸)
- ・係連携によるフォローアップ支援 **14回** (目標14回)
- ・農業基礎講座 **3回** (目標2回)
- ・サポートチーム巡回 **8回** (目標6回)

### 活動結果

- ・認定新規就農者については概ね順調。一部では、コスト高や雹害のため、達成できない方もいた。



## 4-(4) 農業経営発展に向けた家族経営協定締結

目標：家族経営協定締結件数 **84件**

### 活動経過

- ・担当者会議 **1回** (目標3回)
- ・推進担当者リストアップ **14件** (目標10件)
- ・JA広報誌等情報提供 **2回** (目標2回)

### 活動結果

- ・コロナ禍で、効果的な締結推進ができず、オリジナル漫画を作成した。これは様々なところから反響があった。



## 5 到達目標に対する実績①

項目	年次	R2		R3	R4	R5
45歳未満 新規就農者数		現状	目標	8	8	8
		3	実績	14	8	

### 〈考察〉

- ・就農相談支援カードの関係機関への素早い共有化により、一体となった支援を行えた。
- ・就農相談の多くを合同就農相談とし、丁寧に行ったことで、スムーズな就農につながった。



関係機関でチームを作り支援

15

## 5 到達目標に対する実績②

項目	年次	R2		R3	R4	R5
青年等就農計画 売上達成率%		現状	目標	57	66	75
		60	実績	57	63	

### 〈考察〉

- ・大規模な雹害、資材の高騰により、厳しい状況であったが、きめ細かい指導により、**現状値より数値を伸ばす**ことができた。
- ・新規就農者に絞った丁寧な講習会により、**技術の早期習得**が図られた。



新規就農者ナス講習会

16



## 5 到達目標に対する実績③

項目	年次	R2		R3	R4	R5
経営モデル案の作成		現状	目標	0	1	1
		0	実績	0	0	

### 〈考察〉

- ・ナスのモデル案については年度内の作成が間に合わなかったが、**R5ではほぼ完成**
- ・コスト低減型イチゴモデルについても**現在作成中**。



イチゴ育苗若手研修会

17

## 5 到達目標に対する実績④

項目	年次	R2		R3	R4	R5
家族経営協定締結数		現状	目標	88	84	84
		84	実績	80	78	

### 〈考察〉

- ・高齢化により引退するケースもあり、年々締結数が減少。
- ・配偶者が農業をあえてしないタイプの就農者が増えており、家族経営協定の締結がむずかしい。



若手女性農家勉強会

18

## 6 残された課題と今後の対応

(1) 近年は気象災害が多く、露地作物モデルでは経営が不安定になる。

➡ 施設作物へのステップアップモデルの作成

(2) 高齢化に伴い、空きハウスが増加していく。

➡ 新規就農者に渡すための仕組み作り

(3) 資材高騰による利益率の低下で、就農計画が未達の可能性がある。

➡ さらにコスト低減を図るための経費の洗い出し

